

顛仏未来記

御書新版 612頁 7行目〜10行目
御書全集 509頁 8行目〜11行目

伝教大師云わく「浅きは易く深きは難しとは、
積迦の所判なり。浅きを去って深きに就くは、
丈夫の心なり。天台大師は積迦に信順し法華宗を助けて震旦に敷揚し、叡山の一家は天台に相承し法華宗を助けて日本に弘通す」等云々。安州の日蓮は、恐らくは、三師に相承し、法華宗を助けて末法に流通す。三に一を加えて三国四師と号づく。

語句

丈夫の心

仏の心のこと。「丈夫」は仏の十号の一つである「調御丈夫」の略。

震旦

中国のこと。

通解

伝教大師は「浅い教えは易く、深い教えは難しいとは、積尊による判定である。浅い教えを捨てて深い教えを採用することは、丈夫（仏）の心である。天台大師は、積尊に従い、法華宗に力を添えて中国に宣揚し、比叡山の一家は天台のあとを受け継いで、法華宗に力を添えて日本に弘める」と述べている。安房国の日蓮は、恐れ多いことだが、積尊・天台・伝教の三師のあとを受け継いで、法華宗に力を添えて末法に流通するのである。それゆえ、三師に日蓮一人を加えて「三国四師」と名付けるのである。

三国

インド、中国、日本の3国。